

高等学校
世界地理B

教授資料
CD-ROM 付

帝国書院

事例地域一覧表	4
本書の編集方針と内容構成	6
年間指導計画案／観点別評価規準	7
表見返し写真解説	15

SKILL 時差を読みとく	17
----------------------	----

1章 自然環境の多様性

1節 世界の地形と人々	
1 変化に富む世界の地形	18
2 地球内部の熱と力でできる地形	21
3 川がつくる地形	24
4 海がつくる地形	27
5 氷がつくる地形	30
SKILL 地形図の使い方	33
2節 世界の気候と人々	
1 気候の成り立ち	38
SKILL グラフから気候を読みとる	40
2 熱帯(A)気候と生活	41
3 乾燥帯(B)気候と生活	44
4 温帯(C)気候と生活①	47
温帯(C)気候と生活②	50
5 亜寒帯(冷帯・D)気候・寒帯(E)気候と生活	52

2章 世界の生活と文化

1節 世界の衣食住	
1 地域によって違う衣食住	54
2 生活と宗教のかかわり	57
3 画一化が進む衣食住	60
2節 世界の都市と村落	
1 都市の発展	63
2 都市の変化	66
SKILL 地形図でみる都市・村落の変化	69
3 都市の拡大と都市圏	71
4 都市問題と再開発①	74
都市問題と再開発②	77
3節 消費・余暇活動の変化	
1 余暇活動の多様化	80
2 行動圏の拡大と消費活動の変化	83

3章 世界の産業

1節 世界の農業	
1 農業地域を区分する①	86

農業地域を区分する②	89
2 現代世界の農業の現状と課題	92
SKILL 世界の水産業	95
2節 世界の鉱工業	
1 さまざまな工業	97
2 工業の立地と工業地域の変化	100
3 鉱産資源	103
4 エネルギー資源	106

4章 現代世界の諸地域と近隣諸国の調査

1節 地域のスケールと調査の視点	109
2節 市町村規模の地域の調査	
1 身近な地域の調査①	111
身近な地域の調査②	113
2 離れた地域の調査	115
3節 国規模の地域の調査	
1 オーストラリア	117
1 移民と多文化社会	119
2 人口と都市の分布	122
3 農業の地域差と鉱産資源	125
2 アメリカ合衆国	128
1 アメリカ合衆国の成り立ち	130
2 東海岸～連なる大都市と多様な民族～	133
3 五大湖から南部へ～工業地域の変化～	136
4 中西部～農産物の生産と流通～	139
5 西海岸～移民と産業～	142
3 インド	145
1 インドの成り立ち	147
2 農村の人々の生活と変化	150
3 インドの産業発展	153
4節 州・大陸規模の地域の調査	
1 東南アジア	156
1 東南アジアの自然と歩み	158
2 東南アジアの農業	161
3 ASEANと工業化の進展	164
4 変化するASEAN諸国	167
2 中央アジア・西アジア・北アフリカ	170
1 人々とイスラーム	172
2 中央アジア・西アジア・北アフリカの生活の場	175
3 中央アジア・西アジア・北アフリカの産業と課題	178
3 ヨーロッパ	181
1 ヨーロッパの歩みと民族・宗教	183
2 人やモノの移動と欧州連合	186
3 ヨーロッパの農業と食文化	189
4 ヨーロッパの工業	192

5	観光地化が進むヨーロッパ	195
プラスα	ラテンアメリカ	198
1	ラテン系民族の文化と歴史	200
2	農村の人々と生活	203
3	工業化で変化したラテン系民族の生活	206
プラスα	サハラ以南のアフリカ	209
1	サハラ以南のアフリカの歩みと生活・文化	211
2	サハラ以南のアフリカが抱える課題	214
SKILL	国、州・大陸規模の調査のまとめ	217
5節	近隣諸国の研究	
1	中国の研究	219
1	中国の歩みと人々	221
2	多様な自然と農業	224
3	「世界の工場」中国	227
4	生活の変化と拡大する格差	230
5	中国と日本のかかわり	233
2	韓国の研究	236
1	朝鮮半島の成り立ち	238
2	韓国の産業の変化	241
3	生活の変化と国際化	244
3	ロシアの研究	247
1	ロシアの成り立ち	249
2	日本海をへだてて隣接するロシアと日本	252

5章 現代世界の地理的認識

1節	地図でとらえる現代世界	
1	地図から読みとれるもの	255
2	地図化して表す地域格差	257
3	地図化して表す開発と保全	259
2節	地域区分でとらえる現代世界	
1	地域区分とは何か	261
2	地域区分によってとらえる世界	263
3節	結びつきを強める現代世界	
1	世界の国家と国家群	265
2	世界を結ぶ交通・通信	268
3	貿易の拡大と変化	271

6章 現代世界の諸課題と解決への地理的アプローチ

1節	人口・食料問題	
1	世界の人口・食料問題	274
2	発展途上国の人口・食料問題	276
3	先進国の人口問題	279
課題学習	バランスのとれた人口維持をめざして	282

2節	環境問題	
1	さまざまな環境問題	284
2	ヨーロッパの酸性雨	286
3	ボルネオ(カリマンタン)島の熱帯林破壊	289
4	地球温暖化とエネルギー問題①	292
	地球温暖化とエネルギー問題②	295
課題学習	環境と人間の調和をめざして	298
3節	民族・領土問題	
1	世界の民族・領土問題	300
2	ユーゴスラビアの民族紛争	302
3	パレスチナ問題	305
4	民族の共生へ向けての課題	308
課題学習	民族問題解決への取り組み	311
SKILL	目的によって使い分ける地図・図法	313

裏見返し写真解説	315
付録CD-ROMについて	317
帝国書院高等学校地理教材一覧	318

口絵解説

2. アメリカ合衆国

写真解説

■p.88①「世界の中心・マンハッタン」

写真は、マンハッタン島の最南部にあるローワーマンハッタンの高層ビル群を撮影したもので、写真手前の公園はバッテリーパークである。写真のほぼ中央に見える黒いビルの左手あたりが、グラウンドゼロと呼ばれる世界貿易センタービルの跡地である。写真中央の遠景に見える高いビルが、1930年に竣工した地上102階のエンパイアステートビルである。

マンハッタン区は、アメリカ合衆国で最大の人口を有するニューヨーク市の中心である。ハドソン川、イースト川、ハーレム川で囲まれた地域からなり、面積は東京の山手線内ほどである。ここには、ニューヨーク市役所のほか、国際連合の本部、ウォール街、ブロードウェイ、メトロポリタン美術館が立地する。そのため、アメリカ合衆国ばかりでなく、世界の政治、経済・金融、芸術・文化の中心といわれている。マンハッタンという地名は、ネイティブアメリカンの「丘の多い島」を意味する言葉、マンハッテに由来する。気候は温帯湿潤気候に区分されるが、日本の青森県ほどの高緯度にあるため、最寒月(1月)の平均気温は0度まで低下する。

■p.88②「タイムズスクエア」

タイムズスクエアは、ニューヨーク市のマンハッタン区にある。人通りの多い交差点の向こう側に見える看板は、上から、アメリカ合衆国のプルデンシャル生命保険、韓国のサムスン電子、日本のサントリーウイスキー、アメリカ合衆国のザ・コカコーラ・カンパニーのものである。このような建物の外壁に掲げられた多国籍企業の巨大な看板は、タイムズスクエアの名物である。きらびやかなネオンによって夜の景観も華やかであるため、タイムズスクエアは世界の交差点とか世界の繁華街ともいわれている。マンハッタン区では、景観条例によって巨大な屋外広告の設置が禁止されているが、同区のシアター地区に位置するタイムズスクエアでは、ブロードウェイ・ミュージカルの劇場が立地することもある。屋外広告の規制が緩和されている。

■p.88③「ナイアガラの滝」

五大湖のエリー湖とオンタリオ湖の間にあるナイアガラ滝(Niagara Falls)は、カナダ滝(落差約60m、幅670m)、アメリカ滝(落差約30m、幅260m)、ブライダルベール滝(落差55m、幅15m)からなる。写真の右側がカナダ滝であり、左側がアメリカ滝とブ

ライダルベール滝である。

ナイアガラの滝は、アメリカ合衆国で最も有名な観光地の一つであり、滝つぼ近くで水しぶきをあびる遊覧船のツアーはとくに人気が高い。ナイアガラの滝は、ブラジルとアルゼンチンの国境にあるイグアスの滝、ジンバブエとザンビアの国境にあるヴィクトリアの滝と並んで、世界の三大瀑布の一つに数えられる。

ナイアガラの滝は河川交通の障害になるため、1830年代には滝を迂回するウェランド運河が建設された。その後、ウェランド運河は拡張が繰り返されて、現在では全長220m、幅35mまでの大型の外洋船が航行できるようになった。

■p.89④「ケネディ宇宙センター」

この写真は、ケネディ宇宙センターで観光客に公開されているサターンロケットのレプリカである。

ケネディ宇宙センターは、NASA(アメリカ航空宇宙局)のロケット打ち上げ基地であり、フロリダ州東部のケープカナヴェラルに立地する。人類初の月面探査を実現したアポロ計画や、スペースシャトル計画などで知られる。近年では日本人宇宙飛行士が増えていることもあり、ケネディ宇宙センターは日本人にとっても人気の観光地となった。この場所にロケットの打ち上げ基地が建設された理由として、1)砂嘴に囲まれた湿地帯であり、広大な空き地であったこと、2)東部に広い大西洋が広がっており、事故が発生しても被害が少ないこと、3)赤道に近いこと、ロケットの打ち上げに地球の自転の速度を有効に活用できることなどがあげられる。

■p.89⑤「グランドキャニオン」

キャニオンビューポイント(展望台)からグランドキャニオンを望んだ写真であり、多くの観光客でにぎわっている。グランドキャニオンは、1919年にアメリカ合衆国の国立公園に指定され、1979年にはユネスコの世界自然遺産にも登録された。アメリカ合衆国西部で最も有名な観光地であり、トレッキング、キャンプ、ラフティングなどのアウトドア観光がさかんである。アリゾナ州の北部に位置するグランドキャニオンは、コロラド川の侵食によってつくられた。展望台から谷底までの標高差は約1500mである。このように巨大な谷がつけられたのは、地質時代(中新世)において、この地域一帯が急激に隆起したことによる。また、年間の降水量が400mmを下回る乾燥地域であるため、植生の被覆が少なく、砂岩や石灰岩からなる水平な地層がむき出しになっ

ている。

■p.89⑥「ネイティブアメリカンの家」

現在、ネイティブアメリカンの多くは、インディアン居留地 Indian reservation と呼ばれる地域で生活している。彼らの多くは、工芸品を観光客に販売したり、政府からの補助によって生計を立てている。現在のネイティブアメリカンの住居は、写真のような簡素な小屋か低価格のトレーラーハウスであることが多い。

アメリカ合衆国で最大のインディアン居留地は、コロラド州、ユタ州、アリゾナ州、ニューメキシコ州の州境地帯に広がるナヴァホ居留地である。ナヴァホ居留地の面積は600万haで、九州と四国を合わせた面積よりも広い。しかし、乾燥地帯にあるため、作物の耕作には不向きな土地である。

✈ アメリカ合衆国を旅する ✈

ビジネス・観光・留学などの目的で、毎年大勢の日本人がアメリカ合衆国を訪れる。そのため、アメリカ合衆国と日本間の航空料金は、移動距離あたりの値段が安くなっている。さらに、観光が目的であればビザが必要ないことや、英

語が通じることなどによって、アメリカ合衆国は日本人にとって旅行しやすい国の一つとなっている。

アメリカ合衆国のみどころは、日本にない独特の自然を観察できることや、本場のエンターテインメントなどの文化を体験できることである。まず、自然環境について、日本の約25倍という広大な面積をもつアメリカ合衆国には、グランドキャニオン、ヨセミテ、イエローストーン、エヴァーグレイズなど、雄大な自然を満喫できる世界自然遺産がある。また、日本からの距離も近いグアム準州やハワイ州などの島嶼部も、有名なリゾート地である。

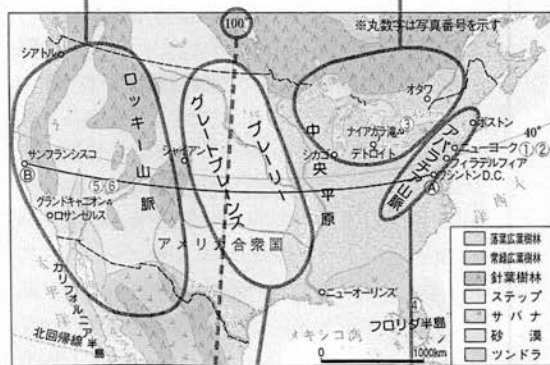
旅行者に人気のあるエンターテインメントとしては、日本人を含めてさまざまな国籍の選手がプレイしているメジャーリーグや、NBAなどの観戦、ジャズやブルースなどの黒人音楽やブロードウェイのミュージカル鑑賞などがあげられる。アメリカ合衆国発祥のディズニーランドやユニバーサル・スタジオなどの大規模なテーマパークも、人気の観光地の一つである。

(筑波大学大学院講師 仁平尊明)

アメリカ合衆国とその周辺の自然環境

西部の山岳地帯は、新期造山帯である環太平洋造山帯の一部を構成している。太平洋岸沿いはプレート境界にあたるため、活断層も多く地震の発生も多い。

五大湖周辺は、更新世の大陸氷河の影響でモレーンもみられる。土壌はあまり肥沃ではない。五大湖も、氷食を受けたU字谷に水がたくわえられた氷河湖である。



ほぼ西経100度が湿潤地域と乾燥地域の境界となり、これより西側が短草草原の広がるグレートプレーンズ、東側が温帯長草草原のプレーリーで、両地域とも肥沃な黒色土壌に恵まれている。

アパラチア山脈は古期造山帯に属するなだらかな山地で、石炭の産出が多い。

MAP TRY!(p.89)の解説・解答

1. ニューヨーク郊外のショッピングセンターや住宅地がみられる都市的な景観から、アパラチア山脈の森林地域をぬけると、牧草地が広がる五大湖沿岸の酪農地域にはいる。シカゴを過ぎるとコーンベルトのとうもろこしや大豆などの畑、さらに小麦畑へと景色が変化する。さらに西へ進むと標高が高くなって山岳地域にはいり、ソルトレークシティに着く。グレートソルト湖の湖岸沿いを通り、塩性土壌が広がるグレートベースンの砂漠の中を通り抜け、シエラネヴァダ山脈をこえると、セントラルヴァレーの整備された灌漑農業地域にはいる。そして、サンフランシスコ湾にかかるベイブリッジを渡ると、坂道にケーブルカーが走るサンフランシスコ中心部に到着する。

37 時限

4章 現代世界の諸地域と近隣諸国の調査

3節 国規模の地域の調査

2. アメリカ合衆国

1 アメリカ合衆国の成り立ち

本時のねらい

1. アメリカ合衆国の文化の基盤となっている、先住民及び世界各地からの移民の文化とその影響について理解を深めさせる。
2. アメリカ合衆国の多様な自然環境について理解を深めさせる。

導入時の発問例

現地レポートより

- ①現地レポートに登場する都市を地図帳上で確認しながら、インターステートハイウェイ80号線のおおよそのルートをたどってみよう。④解答例：省略
- ②ソルトレークシティで冬季オリンピックが開催された自然条件面での背景に、標高の高さをあげることができる。ソルトレークシティは標高何mか、地図帳で調べてみよう。④解答例：約1300m

その他

- ③アフリカ音楽特有のリズムとヨーロッパの音楽が結びついて生まれたとされる「ジャズ」発祥の地はどこか。④解答例：ニューオーリンズ

板書例

●移民文化と世界への影響

- ・1783年…イギリスから東部13州独立
- ・ヨーロッパ系移民によるフロンティア（開拓前線）の西への移動
→ネイティブアメリカンの居住地域がしだいに狭められていった
- ・受けつがれる社会風土
フロンティアスピリット（開拓者精神）や自由を重んじる気風
アメリカンドリーム…努力と才能しだいで大きな成功の可能性
- ・主要な移民集団
ワスプ(WASP) …白人・アングロサクソン・プロテスタント
政治・経済・文化の中心を占めてきた
- アフリカ系 …南部農園での奴隷労働力、ジャズを生む
- ヒスパニック …スペイン語系、南西部やフロリダに多い
- アジア系 …西海岸に多い

●多様な自然環境（東から西へ順に）

- ・大西洋岸 …気温の年較差大きい
- ・アパラチア山脈 …なだらかな古期造山帯
- ・中央平原（五大湖南側）…ミシシッピ川が流れる
- ・草原地域
プレーリー …やや降水量が多い長草草原（Cfa気候）
グレートプレーンズ…降水量が少ない台地上の大平原（BS気候）
- ・ロッキー山脈 …けわしい新期造山帯
- ・太平洋岸 …気温の年較差小さく、冬も暖かい

指導上の留意点

☞教p.91図⑤、図⑦を参照し、フロンティアの移動とアメリカ合衆国の歴史を確認させる。

☞これまでのアメリカ合衆国大統領は、J.F.ケネディ（彼はアイルランド系カトリック）以外、すべてWASPであることにふれる。

☞地図帳の活用例①から、アメリカ合衆国内の人種・民族構成の地域的特徴を理解させる。

☞フィードバック 教p.89図⑦を参照させ、ロッキー山脈、グレートプレーンズ、プレーリー、アパラチア山脈などの位置と植生の特徴を確認させる。

地図帳の活用例

- ①新p.68③で、白人（ヨーロッパ系）以外の人種・民族の居住地域の分布の特徴と、主な都市の人種・民族構成の特徴を確認させる。④解答例：地域的にみると、西部にヒスパニックやアジア系が多く、南東部は黒人が多い。都市部に限定すると、北東部の大都市の黒人比率の高さが特徴的である。

■p.90①「ソルトレークシティ」

ソルトレークシティは、アメリカ合衆国中西部にあるユタ州の州都である。年間の降水量は380mm程度であり、ケッペンの気候区分ではステップ(BS)気候に相当する。写真の近景に見える中心市街地は、海拔約1300mの高地にある。遠景のロッキー山脈は2000~3000mの標高があり、冬季には高地性の積雪に恵まれる。市街地から近い場所にスキーのゲレンデがあるため、アメリカ合衆国でも有数のスキーリゾート地となっており、2002年には冬季オリンピックが開催された。

ソルトレークシティは、キリスト教の一宗派であるモルモン教の信徒によって、19世紀中頃に開拓された町である。町の名前は、郊外にある塩湖、グレートソルト湖に因んでいる。当時の開拓民は、ロッキー山脈から灌漑水路を引くことによって、砂漠の荒野に町を築いた。ソルトレークシティには、現在でもモルモン教の本部がおかれ、約18万の人口(2000年)のうち約7割がモルモン教徒であるといわれる。

■p.90②「セントルイスとミシシッピ川」

セントルイスは、ミズーリ州の東部に位置する人口36万(2007年)の都市である。写真の手前に見えるミシシッピ川は、イリノイ州との州境になっている。写真中央のアーチ状の建築物は、高さ192mのゲートウェイアーチである。西部への入り口を意味し、西部開拓を記念するこのモニュメントには展望台が設置されており、休日には多くの観光客でにぎわう。同じ敷地内には開拓博物館や旧裁判所などがあり、西部開拓時代の遺産が展示されている。

■p.90③「アメリカ合衆国の断面図」

アメリカ合衆国の地形は、東部の平野と西部の山地とに大きく分けられる。中央平原に代表される東部の平野は、古生代~中生代の地層によってつくられた構造平野であり、地震がほとんどない安定陸塊に属する。中央平原に隣接するアパラチア山脈は、古生代の造山運動によってつくられた古期造山帯に属する海拔1000m前後の丘陵性の山脈であり、石炭紀の地層からは大量の石炭が産出される。一方、西部の山地は、ロッキー山脈をはじめとして、ワサチ山脈、シエラネヴァダ山脈、カスケード山脈、海岸山脈などの複数の山脈からなる。ロッキー山脈には、コロラド州にあるエルバート山(海拔4398m)をはじめ、3000~4000m級の高山が連なる。これらの山脈は、中生代以降の造山運動によってつくられた新期造山帯に属し、とくに西海岸では活断層による地震の災害もある。

■p.90④「アメリカ合衆国の人種・民族構成」

世界第3位の人口を有するアメリカ合衆国の社会は、複数の人種・民族が互いの文化を尊重しながら生活をしているため、「人種のサラダボウル」と例えられる。人種・民族構成のなかで最も割合が高いのがヨーロッパ系の白人であり、全体の約7割を占める。しかし、近年では、ヨーロッパ系の白人以外のいわゆるマイノリティ(少数派民族)の割合が高まっている。最も増加の著しいマイノリティが、スペイン語を母国語とするヒスパニックである。2000年の国勢調査によると、ヒスパニックの割合は、それまで最大のマイノリティだったアフリカ系アメリカ人(黒人)をこえた。ヒスパニックは主にメキシコや中南米諸国からの移民であり、工場・農場・建設現場などの重要な労働力として、アメリカ合衆国の社会に貢献している。近年では、ヒスパニックに次いでアジア系の増加率も高くなっている。アジア系の多くは華人であるが、ラオスやベトナムなどの東南アジア系、インド系、韓国系の住民も増えている。

■p.91⑤「フロンティアの移動と移民の歴史」

フロンティアとは、開拓地と未開拓地との境界であり、アメリカ合衆国の西部開拓の歴史とともに西へ移動した。すなわち、アメリカ合衆国の領土は、1783年の独立時にはミシシッピ川以東であったが、19世紀中盤には西海岸まで拡大した。19世紀後半にアメリカ合衆国政府は、人口希薄な西部での定住者を増やすために、とくにヨーロッパから多くの移民を受け入れるようになった。フロンティアに入植した白人の多くは、政府から与えられた土地で農業に従事した。白人の入植地が広がるにしたがって、ネイティブアメリカン(先住アメリカ人)は居留地に移住させられた。19世紀末に大陸横断鉄道が開通すると、未開拓地がなくなってフロンティアは消滅した。

■p.91⑥「独立記念館」

ペンシルヴェニア州のフィラデルフィアにある独立記念館 Independence Hall は、1776年7月4日に13州の代表者によって独立宣言の署名が行われた建物である。1976年には、UNESCOの世界遺産(歴史遺産)に指定されている。1790年から1800年まで、フィラデルフィアはアメリカ合衆国の首都となったが、この建物が国会議事堂として使用された。

本文解説

■インターーステートハイウェイ(p.90現地リポート②1)

インターーステートハイウェイは、1956年の連邦道路補助高速道路法(通称「ハイウェイ構想」)によって建設が始まった。その後、ベトナム戦争やオイル

ショックを経て、計画されたすべての区間が開通したのは1991年だった。インターステートハイウェイは片側2車線以上の車道を確保している。また、立体交差やインターチェンジを用いることで交差点や信号機をなくしたため、フリーウェイとも呼ばれる。こうした道路構造は、日本の高速道路のモデルにもなった。ただし、インターステートハイウェイは、ほとんどの区間で通行料金が無料である。制限速度は時速65~75マイル(105~120km)である。

■フロンティアスピリット(開拓者精神)(p.90 ⑥)

フロンティアスピリットは、西部の未開拓地に入植したホームステッダーと呼ばれる開拓農家に因んでいる。当時のホームステッド法によれば、西部の原野に入植した開拓農家が、農業や畜産の経営によって5年間定住できれば、その土地(64~256ha)を無償で得ることができた。しかし、冬季のブリザードや夏季の干ばつなど、頻発する自然災害によって作物や家畜が全滅することも多く、ホームステッダーの生活は困難を極めた。大勢のホームステッダーが土地を離れていくなかで、経営の創意工夫と辛抱強さの気質をもった農家だけが定住して土地を獲得することができたのである。

■ワスプ(WASP)(p.90 ⑪~12)

白人(White)、アングロサクソン(Anglo-Saxon)、プロテスタント(Protestant)の略語である。ワスプは、イギリスを中心とする北西ヨーロッパからの移民であり、最初にアメリカ合衆国に移住した住民である。彼らは多数派の移民集団として、アメリカ合衆国の政治的・社会的基礎を築き上げた。

1776年の建国時から1960年代までは、アメリカ化(アメリカ同化論)というワスプ特有の考え方のもと、新たに移住した民族は、言語や政治的な側面でアメリカ社会に同化するように努めてきた。とくに19世紀後半に移住してきた大勢のヨーロッパ民族は、アメリカ社会という「人種のるつぼ(メルティングポット)」のなかで、彼らの文化が融合されていったといわれる。一方、近年増加しているヒスパニックなどの新しい移民は、必ずしも従来のワスプによるアメリカ合衆国の文化にとけ込んでいないため、現在のアメリカ合衆国の社会は「人種のサラダボウル」と呼ばれるようになった。

■ヒスパニック(p.91 ⑤)

ラテンアメリカのスペイン語圏からアメリカ合衆国へ移住した民族集団である。ヒスパニックはアメリカ合衆国最大の少数民族である。2000年の国勢調査によると、アメリカ合衆国の人口に占めるヒスパニックの割合は12.6%(約3500万人)であり、黒人(アフリカ系アメリカ人)の12.3%を上回った。ヒスパ

ニックのなかで最大の民族集団がメキシコ系の住民であり、ヒスパニック全体の約6割を占める。次いで、プエルトリコ系が9.4%、キューバ系が3.4%である。メキシコ系のヒスパニックは、カリフォルニア州やテキサス州など、メキシコとの国境に近い南部~西部の州に多く分布する。一方、プエルトリコ系やキューバ系のヒスパニックは、フロリダ州やニューヨークなどの東海岸の都市に多い。このように、ヒスパニックは母国に近い地域に集住する傾向がある。

■グレートプレーンズ(p.91 ⑬)

ロッキー山脈の東側に広がる台地状の平原であり、カナダからテキサスまで広大な地域に広がることから、大平原Great Plainsと呼ばれるようになった。東側の標高は400mほどであるが、西へ向かうにしたがってゆるやかに標高が高くなり、ロッキー山脈の近くでは2000mほどになる。グレートプレーンズの西側の部分で標高が800mをこえる地域は、ハイプレーンズと呼ばれる。グレートプレーンズは、降水量が少ない(およそ500mm以下)ため、大きな樹木は少なく、乾燥に強い丈の短いイネ科の植物が繁茂している。グレートプレーンズに最初に入植した開拓農家は、この天然の草地を利用して牛の放牧をはじめた。20世紀に入ると、肉牛の生産に加えて、小麦栽培がさかんになった。カンザス州を中心とする冬小麦地帯や、南北ダコタの春小麦地帯などは、世界最大の穀作地帯の一つである。

■プレーリー(p.91 ⑬)

プレーリー Prairie は、グレートプレーンズの東側、中央平原の西側に広がる草原である。グレートプレーンズがステップ気候との境界に位置する半乾燥地域であるのに対して、プレーリーは比較的降水量の多い温帯平原であり、長草の草地が卓越する。土壌もまた、肥沃なプレーリー土(黒色土)に覆われることなどから、農作物の生産力が高い地域となっている。プレーリーでは、小麦ばかりでなく、イネ科の作物では最大になるとうもろこしや、マメ科の大豆など、さまざまな作物が生産されている。

(筑波大学大学院講師 仁平尊明)

TRY (p.91)の解説・解答

本文中のジーンズ、スーパーマーケット、ハンバーガー以外には、スポーツの野球・アメリカンフットボールが代表例。食料品では、コーラに代表される清涼飲料水や、コーヒー、ハンバーガーなどのチェーン店が有名。娯楽ではハリウッド映画が多数上映され、映画産業に関連したテーマパークが複数日本に進出している。

38時限

- 4章 現代世界の諸地域と近隣諸国の調査
3節 国規模の地域の調査
2. アメリカ合衆国
2 東海岸～連なる大都市と多様な民族～

本時のねらい

1. 世界都市ニューヨークの特色を、都市構造、都市文化、移民などの観点から理解させる。
2. 東海岸の主要都市である、ボストン、ワシントンD.C.に関して理解を深めさせる。

導入時の発問例

現地レポートより

- ①教p.88写真②の中央にあるタイムズスクエア巨大広告には、アジア系企業の広告もみられる。どんな企業の広告があるだろうか？**④解答例**：韓国の家電メーカー(サムスン)と、日本の洋酒メーカー(サントリー)の広告。
- ②中華レストランが多数集まるチャイナタウンは、ニューヨーク以外にも世界各地に多数みられるが、日本ではどこの都市のチャイナタウンが有名か？**④解答例**：横浜(中華街)や神戸(南京町)。

その他

- ①ニューヨーク以外で、世界のファッション産業が集積している都市をあげてみよう。**④解答例**：パリ(フランス)やミラノ(イタリア)。

板書例

●世界都市ニューヨーク

- ・メガロポリス…带状の巨大な都市的地域
ボストン・ニューヨーク・フィラデルフィア・ワシントンD.C.
- ・マンハッタン
 - ①国際金融の拠点…ウォール街の銀行・証券会社
 - ②国際政治の中心…国際連合本部・加盟国の代表部
 - ③芸術文化の世界的中心
- ・ブロードウェイのミュージカル劇場、五番街のブティックなど
- ・人種のサラダボウルの街…出身地ごとに移民が集住
例)①リトルイタリア(イタリア系)、
②ブルックリンやハーレム(アフリカ系)
③チャイナタウン

●歴史の町ボストンと政治の中心ワシントンD.C.

- ・ボストン…USA最古の都市
 - ①赤レンガのイギリス風歴史的街なみ
 - ②エレクトロニクスハイウェー…IT産業の集積(1980年代以降)
- ・ワシントンD.C.
 - ①連邦政府の直轄地…州に属さない
 - ②首都機能…ホワイトハウス、連邦議会

指導上の留意点

- 教p.88「ニューヨークからナイアガラへ」及びp.92現地レポート「ニューヨークを歩く」を読ませ、写真を参照させながら、世界都市ニューヨークのイメージを形成させる。
- 教p.92図④で、出身地ごとの移民集住地区を確認させながら、各文化を大切にす人種のサラダボウルの意味を考えさせる。
- 教p.93写真⑥で、ボストンの赤レンガづくりの建物を確認させる。
- 教p.93図⑤を使用して、ボストン～ワシントン間の距離が、日本でいうと東京～岡山間程度の距離であることを確認させる。

地図帳の活用例

- ①新p.66, 歴p.70, 標p.80の東部大西洋岸の地図から、東部大西洋岸に位置する人口50万人以上の大都市を、北から順にピックアップしてみよう。**④解答例**：ボストン・ニューヨーク・フィラデルフィア・ボルチモア・ワシントンD.C.

■p.92①「ニューヨーク市民のいこいの場、セントラルパーク」

マンハッタン区にあるセントラルパークは、ブロードウェイ、五番街、タイムズスクエアなどの繁華街に隣接し、文字通り大都市の中央にある公園である。セントラルパークは、19世紀の中頃にニューヨークの都市計画の一環として建設された。アメリカ合衆国では最初に計画された都市公園であり、ロンドンのハイドパークやパリのブローニュの森がモデルになっている。その面積は3.4km²(およそ4km×0.8km)であり、東京都の代々木公園の6倍以上もある。

■p.92②「ミュージカルがさかんなブロードウェイ」

ブロードウェイはマンハッタン区にある大通りである。とくにタイムズスクエア周辺はシアター地区と呼ばれ、ミュージカルや演劇を上映する劇場が約40軒立地している。ブロードウェイのミュージカルは、劇場収入が維持される間は同じミュージカルが上映されるというロングラン公演方式である。オペラ座の怪人、キャッツ、レ・ミゼラブルなどは、15年以上も続けて公演された。

■p.92③「チャイナタウン」

写真はマンハッタン区、ウォール街の近くにあるチャイナタウンである。イタリア人街、ユダヤ人街とともに、マンハッタンの中心にチャイナタウンがあるのは、中国人のアメリカ合衆国への移民の歴史が古いためである。1980年代以降、中国系の移民が増加し、クインズ区やブルックリン区など、マンハッタン区周辺の地域にも新しいチャイナタウンが形成された。これらの新しいチャイナタウンでは、中国系の銀行の支店や学習塾、書店、スーパーマーケットなど、地元の華人の生活に密着した商店が多く見られる。

■p.92④「ニューヨークの都市機能と民族の住みわけ」

世界で最も有名な都市であるといわれるニューヨークでは、さまざまな民族・人種の住民が生活している。住みわけによって特定の民族によるエスニックタウンが形成されたのは、食材や日用雑貨などの生活必需品ばかりでなく、言語や宗教(例えばユダヤ人街のユダヤ教会など)などの文化的なサービスを含めて、民族特有の需要を満たす必要があったためである。中心部のローワーマンハッタンにあるイタリア人街、ユダヤ人街、チャイナタウンなどは、移民の歴史が古い民族によるエスニックタウンである。例えば、19世紀後半から20世紀前半にかけて移

民してきたイタリア人によってつくられたリトルイタリーは、イタリア料理のレストランが並ぶ観光地として有名である。しかし、現在ではイタリア系住民の多くは、クインズ区や郊外に移住している。リトルイタリーでは、中南米からきたヒスパニック系や中国系の華人が経営する店舗が増加している。

■p.93⑤「アメリカ合衆国のメガロポリスと同縮尺の日本」

メガロポリスとは、複数の大都市が連なる都市群である。メガロポリスという言葉は、アメリカ合衆国東部のボストンからワシントンD.C.まで約700kmの都市群を指すものとしてつくられた。メガロポリスにはアメリカ合衆国の政治・経済・学術の機能が集積しており、世界でも有数の大都市圏(メガシティ)を包含する。メガロポリスを形成する主な大都市の都市圏人口は、ニューヨークが約1900万、フィラデルフィアが約600万、ワシントンD.C.が約520万ボストンが約440万に達する。

アメリカ合衆国のメガロポリスに対して、日本では太平洋ベルトの東部を東海道メガロポリスという。東海道メガロポリスは、京葉工業地帯～阪神工業地帯に含まれる都市によって構成される。主な大都市の都市圏人口は、東京が約3400万、大阪が約1800万、名古屋が約1100万であり、アメリカ合衆国のメガロポリスに匹敵するが、日本では平野が少ないために人口密度が高くなっている。

■p.93⑥「ボストンの街なみ」

ボストン市は、アメリカ合衆国の東海岸、マサチューセッツ州の州都である。マサチューセッツ州を含めて東海岸北部の6州は、イギリスからの清教徒の移民によって築かれたことから、ニューイングランド地方といわれる。ボストン市もまた、1630年に設立されたアメリカ合衆国で最も古い都市の一つである。写真のような古いレンガ造りの建物が見られる歴史的な街区は、古いイギリスの町をイメージさせるものであり、ボストン市の重要な都市観光資源となっている。また、アメリカ合衆国の独立以降、大勢のヨーロッパ移民がボストン港に入港し、ここから鉄道や馬車でさまざまな地域に入植した。そのため、ボストンはアメリカ人の「心の故郷」ともいわれる。ボストンは、メガロポリスの北端にあたり、2005年の人口は約60万である。ボストン都市圏の中心都市であり、経済・金融の中心である。

■p.93⑦「ハーレムのアポロ劇場」

ニューヨークのマンハッタン区、セントラルパークの北側にある黒人居住地区をハーレムという。地名の由来は、17世紀半ばにオランダ人が入植して、ニューハーレムという集落を建設したことによる。

なお、ニューヨークは、1664年にイギリス人によって占領される前は、オランダ人が入植していたことから、ニューアムステルダムという地名だった。

写真のアポロ劇場は、黒人のミュージシャンやアーティストが活動するクラブとして、1934年にオープンしたものである。

本文解説

■メガロポリス(p.92 ㉔3)

メガロポリスの語源は、ギリシャ語の「大きな町」である。現在一般的に使用されているメガロポリスは、連接する大都市群という意味であり、フランスの地理学者ジャンゴットマンによって、アメリカ合衆国の北東部に連なる巨大都市群を示す都市地理学用語として提唱された。メガロポリスを形成する主な都市は、北部から、ボストン、ニューヨーク、フィラデルフィア、ボルチモア、ワシントンD.C.である。なお、メガロポリスと同義的に解釈されることがある用語として、メトロポリスがある。こちらはギリシャ語の「母の都市」を語源とし、大都市あるいは中心都市という意味として使用される。多くのメトロポリスは周辺の衛星都市と連接して、大都市圏を形成している。

■ウォール街(p.92 ㉔8)

ウォール街は、ニューヨークのマンハッタン区の南部に位置する金融街である。世界各国の大手銀行の支店、証券会社、連邦準備銀行などが集まっていることから、世界の金融の中心といわれる。なかでもニューヨーク証券取引所は、ロンドンや東京とともに世界三大証券取引所とされ、世界一上場が難しい証券取引所といわれる。連邦準備銀行は、ドル紙幣の発行や公定歩合を調整する政府機関である。アメリカ合衆国に12ある連邦準備銀行のうちの一つがウォール街にある。なお、1990年代のIT革命以降、ウォール街の多くの銀行がミッドタウン地区に移転している。ミッドタウン地区には、新興企業向けの証券取引所として知られるNASDAQがある。

■国際連合(p.93 ㉔2)

マンハッタン区の1番アヴェニューと46番ストリートに国際連合の本部ビルがある。国際連合は、1945年のサンフランシスコ会議で発足した国際機関で、発足時の加盟国は51か国であったが、2006年現在は192か国となった。国際連合の主な活動は、世界の平和維持、軍備管理、人権維持であり、活動を遂行するために国際連合総会や安全保障理事会などの6つの機関がある。

1946年にロンドンで開催された第1回国連総会において、国際連合の常駐本部がアメリカ合衆国に

おかれることが決まった。現在の国連本部ビルは、1952年に完成した。国連総会ビル、国連事務局タワーのほか、会議場と図書館の四つの建物から成っている。約5000人の国連スタッフが勤務しており、観光客向けのガイドツアーも提供されている。

■IT産業関連の企業がハイウェー沿いに数多く立地(p.93 ㉔18～19)

ボストンをとり囲む環状線のルート128沿いの地域は、サイバーディストリクトとも呼ばれ、シリコンヴァレーと並ぶ先端技術産業の集積地として知られる。1970年代には、先端技術産業の中でもとくにコンピュータ関連産業が発展し、マサチューセッツ・ミラクルといわれた。その要因は、国防総省からの受託プロジェクトやMIT(マサチューセッツ工科大学)の技術力を背景とする。しかし、1980年代中期以降は、国防費の削減、経済不況、閉鎖的な企業体制などの理由により、ルート128の先端技術産業は衰退していった。ボストン都市圏は、アメリカ合衆国で最も物価の高い地域といわれ、地価や家賃が高いことも、シリコンヴァレーと比べて新しくベンチャー企業が育たなかった要因である。しかし、2000年以降、高等教育と研究機関の集積、治安の良さ、住民の学歴の高さなどを背景に、先端技術産業の再建が進んでいる。

■ワシントンD.C.(p.93 ㉔21)

ワシントンD.C.は、ポトマック川の下流部に位置するアメリカ合衆国の首都である。D.C.はDistrict of Columbiaの略であり、アメリカ大陸の発見者であるコロンブスにちなんだものである。また、ワシントンは初代大統領のジョージ・ワシントンにちなんだものである。1790年に連邦議会は、首都をそれまでのフィラデルフィアからワシントンD.C.(当時はコロンビア特別区)に移動することを決定した。この場所は、メリーランド州とヴァージニア州の境界にあたり、アメリカ合衆国の北部と南部の中間地点である。ワシントンD.C.の面積は177km²であり、東京都山手線内の約3倍程度にすぎない。その市域内に、ホワイトハウス、連邦議会議事堂、連邦最高裁判所の三権の最高機関と中央官庁が集まる。

(筑波大学大学院講師 仁平尊明)

TRY (p.93)の解説・解答

毎年9月11日前後には、ワールドトレードセンタービルのテロに関連した話題が取り上げられる。また、ファッションの発信基地として、ニューヨークコレクションが取り上げられることもある。国連関係の記事もニューヨーク発の記事である。

39時限

- 4章 現代世界の諸地域と近隣諸国の調査
3節 国規模の地域の調査
2. アメリカ合衆国
3 五大湖から南部へ～工業地域の変化～

本時のねらい

1. 合衆国における近年の工業に関する立地変動について理解を深めさせる。
2. 生産拠点の移動や研究開発機能の発達に代表される、合衆国工業の質的变化について理解を深めさせる。

現地リポートより
導入時の発問例

- ①ビッグスリーと呼ばれるアメリカの主要自動車メーカーの名前をあげてみよう。④解答例：ゼネラルモーターズ、クライスラー、フォード。
②デトロイトで自動車の大量生産が可能になったのは、どのような生産システムが導入されたからか。④解答例：ベルトコンベアシステム。
- ①教p.94③のグラフから、アメリカとフランスは航空機生産の2大国であることがわかるが、航空機製造メーカーで知っている会社名をあげてみよう。④解答例：アメリカのボーイング社(p.99の写真⑧)やフランスのエアバス社が有名。

板書例

指導上の留意点

●南下する工業地域

- ・五大湖周辺の重化学工業地域…石油危機までの中心地
 - ①五大湖の水運と、メサビ鉄山、アパラチア炭田の資源を活用
 - ②自動車産業発展の地理的背景…関連産業の集積
デトロイト ← 周辺都市のゴム工業(タイヤ)
(ビッグスリー本社) ガラス工業(窓)
↑
ピッツバーグの鉄鋼(←アパラチア炭田の石炭)
 - ③鉄鋼・自動車分野の衰退←欧州・日本とのコスト競争
 - ④先端技術産業(コンピュータなど)にシフト
- ・サンベルト…石油危機後発展した新しい工業集積地域
(北緯37度以南の地域)
 - ①石油化学・宇宙産業…ヒューストン・ニューオーリンズ
(背景：メキシコ湾岸油田やNASAの宇宙基地)
 - ②コンピュータ・半導体…ダラス(シリコンプレーン)周辺
 - ③自動車産業の立地…国内企業の移転や日本メーカーの進出
(背景：安価で豊富な労働力)

●生産拠点から研究開発拠点へ

- ・産業の空洞化←日本・韓国・中国などとの競争
人件費が高いアメリカ国内での生産が困難に→生産拠点は海外へ
- ・研究開発機能への移行
例)ピッツバーグ
鉄鋼から、コンピュータ・バイオテクノロジーの研究開発へ

⇨五大湖の水運活用の状況を教p.94図③で理解させる。

⇨教p.95図⑤で、五大湖周辺の工業をささえてきた鉄鉱・石炭資源の産地を確認させる。
⇨地図帳などでメキシコ湾岸油田の位置が海底にもあることを参照させ、教p.95写真⑥の海上プラットフォームの理解の助けとする。

⇨教p.89「ケネディ宇宙センターを訪ねる」や地図帳の活用例から、サンベルトの宇宙産業の立地を確認させる。

⇨日本企業のアメリカへの自動車工場進出には、対日貿易赤字を減らすという側面もあったことに触れる。

地図帳の活用例

- ①新p.70④から、アメリカへ進出した日本の自動車企業の集積地域を確認させる。④解答例：インディアナ州・オハイオ州・ケンタッキー州などに進出している企業が多い。
②新p.65～66①、歴p.69～70①、標p.77～78①を参照させ、教p.89で紹介されているフロリダ州のケネディ宇宙センターの位置を確認させる。④解答例：テキサス州ヒューストンのジョンソン宇宙センターの位置も確認させる。

■p.94①「大手自動車企業のあるルネサンスセンター」

ルネサンスセンターは、エリー湖とヒューロン湖を結ぶデトロイト川のほとりにあり、カナダのウィンザー市と向かい合っている。ルネサンスセンターは、六つのオフィスビルとホテルから構成されている。中央に見える高いビルがマリオットホテルであり、73階の最上階には展望レストランがある。周囲に見える四つの39階建てビルは、世界最大の自動車メーカーであるゼネラルモーターズ社の世界本社ビルになっているほか、郵便局や日本領事館なども入居している。ルネサンスセンターは、1977年にフォード社が建設したものを1996年にゼネラルモーターズ社が購入して改築したものである。ルネサンスセンターの周囲には、ショッピングセンター、劇場、映画館、野球やアメリカンフットボールのスタジアムなどが建設され、デトロイト中心部の再開発のシンボルとなっている。

■p.94②「自動車の殿堂」

自動車の殿堂 Automotive Hall of Fame は、自動車工業に大きな貢献のあった人物の功績をたたえるために1931年に創設された。自動車の殿堂の博物館は、1971年にミシガン州のミッドランドにつくられた。写真は、1997年にデトロイト都市圏のデアボーンに移転した現在の博物館である。フォード社の創設者であるヘンリー・フォードや、ゼネラルモーターズの創設者であるウィリアム・デュラントなど、2006年時点において223人が自動車の殿堂に名前を連ねている。日本人では、殿堂入りが古い順に、本田宗一郎(本田技研工業の創業者、1989年に殿堂入り)、豊田英二(トヨタ自動車の元会長、1994年)、田口玄一(品質工学の工学者、1997年)、片山豊(アメリカ日産の元社長、1998年)、梁瀬次郎(自動車販売業者の会長、2004年)の5人が名前を連ねている。

■p.94③「デトロイトと周辺の鉱工業」

デトロイトと周辺の都市は、オハイオ・エリー運河とセントローレンス運河の中継点であることから、交通の要所として発展した都市が多い。また、メサビ鉄山とアパラチア炭田に近く、鉄鉱石と石炭が入手しやすいことから鉄鋼業が発展した都市が多い。デトロイトは、もともと馬車の製造がさかんで、その生産基盤をいかして19世紀末に自動車工業がおこった。ヘンリー・フォードによる大量生産方式の自動車工場が建設され、1903年にT型フォードが開発されると、アメリカ合衆国にモータリゼーション(車社会化)が進んだ。ゲーリーは、USスチール社の工

場建設によって1906年に誕生した町であり、町名はUSスチール社の当時の社長にちなんでいる。ミルウォーキーは、ビール醸造でも有名であるが、ハーレーダビットソンの本社があり、オートバイ製造業がさかんである。デトロイトに近いトレドは、自動車のガラス製造で発展した町である。クリーヴランドは、鉄鋼業と自動車工業で発展した都市であり、石油精製業やガソリンスタンドの経営などで財をなした石油王・ロックフェラー財団の創業地としても知られる。

■p.94④「世界のおもな工業製品の輸出に占めるアメリカ合衆国の割合」

アメリカ合衆国の工業製品の中で依然として強い国際競争力をもっているのは、旅客機や軍用機などの航空機部門であり、世界に占める割合は4割に近い。旅客機の製造で有名なボーイング社は、1916年にシアトルで創業した。1997年にマクドネルダグラス社を買収し、2001年には本社がシカゴに移転したものの、その主力工場は依然としてシアトルにある。ボーイング社は、フランスのトゥールーズに本社があるエアバス社と並んで世界の2大航空機メーカーとされている。

コンピュータなどの先端技術産業でも、アメリカ合衆国は強い国際競争力をもっている。コンピュータ本体などのハード面では中国の生産量に抜かれたが、OS(オペレーティングシステム)やアプリケーションなどのソフトウェアではアメリカ企業の製品が高いシェアを占める。自動車の輸出上位は、ドイツ、日本、カナダとなっており、アメリカ合衆国は5位にすぎない。しかし、アメリカ合衆国の自動車の生産量は、約1200万台で世界第1位である(2004年)。車社会のアメリカ合衆国は、世界一の自動車の消費・輸入国でもある。なお、カナダにはゼネラルモーターズや日本のトヨタなどの工場が立地している。

■p.95⑤「アメリカ合衆国の鉱工業」

アメリカ合衆国の工業地域は、北緯37度で大きく分けることができる。37度よりも南側は温暖な気候下にあることからサンベルトと呼ばれ、1970年代中期以降に先端技術産業が発展した地域である。サンベルトでは、原油や天然ガスが豊富であり、電力料金が安いこともあって、アルミニウムや半導体など軽い原料を使用する産業が発展した。

一方、北緯37度よりも北側の工業地域は、サンベルトに対して、フロストベルト(またはスノーベルト)と呼ばれるようになった。フロストベルトの中でもとくに五大湖周辺は、鉄鉱石やコークスの原料になる石炭が豊富にあることから、第二次世界大戦

以前より鉄鋼業に関する産業が発展した。サンベルトの台頭以降、フロストベルトでは企業の倒産に伴う失業や犯罪の増加などの社会問題が多発した。しかし、近年のフロストベルトでは、自動車産業の再建、IT産業などの新しい業種の育成、市街地再開発事業の進展などにより、以前の繁栄を取り戻しつつある都市も多い。

■p.95⑥「メキシコ湾岸の油田」

写真は洋上のプラットフォーム(海底油田掘削設備)である。ルイジアナ州とテキサス州の沖合を中心とするメキシコ湾には、このようなプラットフォームが819あり、そのうち469が有人のものである。プラットフォームによる大規模な海底油田の掘削は、1947年からメキシコ湾で始まった。沿岸から近い大陸棚での掘削から始まり、近年では沖合の深海域での掘削も行われている。例えば、シェブロンオイルとマラソンオイルが共同で運営するペトロニウスプラットフォームは、ニューオーリンズ沖の210kmに位置し、1日あたり約5万バレルの原油と200万m³の天然ガスを産出する。このプラットフォームは世界最長の建造物といわれ、洋上75m、海中535mの長さがある。なお、2005年におけるアメリカ合衆国の原油生産量は683万バレル/日であり、サウジアラビアとロシアに次いで世界第3位であった。アメリカ合衆国の原油生産量のうち約4割がメキシコ湾で産出されている。

■p.95⑦「現地生産を行う日本企業の自動車工場」

アメリカ合衆国に自動車の組立工場を有する日本企業は、ホンダ(最初の工場建設:1982年)、日産(1983年)、トヨタ(1984年)、マツダ(1987年)、三菱自動車(1988年)、富士重工・いすゞ(1988年)である。また、2007年現在、日本の自動車企業の最終組立工場があるのは、インディアナ(トヨタ、富士重工、ホンダ)、テキサス(トヨタ)、アラバマ(ホンダ)、オハイオ(ホンダ)、ケンタッキー(トヨタ)、カリフォルニア(トヨタ)、テネシー(日産)、ミシシッピ(日産)、ミシガン(マツダ)、イリノイ(三菱自動車)の10州である。

アメリカ合衆国で日本車の輸入量が増大したのは1970年代である。当時、オイルショックによるガソリン価格の高騰のため、車体が小さくて燃費が良い日本車が飛ぶように売れた。しかし、1980年代になると、日本車の輸入は貿易摩擦を生じ、いわゆる日本叩きJapan bashing現象に発展した。そのため日本の自動車企業は、現地で工場を建設し、アメリカ人を雇用して日本車を製造するようになった。

本文解説

■サンベルト(p.94 & 13)

アメリカ合衆国の北緯37度以南の地域は、1970年代以降、電子や航空機などの先端技術産業や石油関連産業が発展した。この地域は、その温暖な気候にちなんでサンベルトと呼ばれる。サンベルトを象徴するのが、コンピュータのチップなどに使用される半導体産業である。半導体製品の企業が多く集積する地域は、半導体の原料であるシリコンにちなんで、シリコンヴァレー(カリフォルニア州)、シリコンデザート(アリゾナ州)、シリコンプレーン(テキサス州)と呼ばれる。サンベルトは、メキシコやカリブ海諸国から移住したヒスパニックが多く、労働力に恵まれている地域である。また、原油や天然ガスなどの地下資源にも恵まれており、電力料金や法人税が安いことも、アルミニウム精錬工場などの装置工業の立地に有利だった。

■ピッツバーグ(p.95 & 21)

ピッツバーグは、ペンシルヴェニア州の西部に位置する町であり、2006年の人口は約31万である。町のニックネームとして、「鉄の町 Steel City」が知られる。ピッツバーグは、五大湖のメサビ鉄山とアパラチア炭田に近接することから、鉄鋼業の立地に適した地域であった。この地で鉄鋼業が大きく発展した要因は、鉄鋼王といわれるアンドリュー・カーネギーによって、USスチールが1901年に設立されたことにある。

1980年代に日本と韓国の台頭によりアメリカ合衆国の粗鋼生産量が減少すると、ピッツバーグをはじめとする製鉄業の町は経済的に衰退した。失業者が多くなり、町の中心部には治安の悪いスラムが形成されるなどの都市問題が発生したが、現在では失業者対策や市街地の再開発が進んでいる。なお、ピッツバーグにあるカーネギーメロン大学は、アメリカ合衆国の3大名門工科大学の一つとして知られる。

(筑波大学大学院講師 仁平尊明)

TRY (p.95)の解説・解答

図は省略。最も大きな工業の中心の移動として、1970年代以降の基幹産業の移りかわり(重工業→先端技術産業)を、五大湖周辺地域(ピッツバーグ、デトロイト、シカゴなどを大まかに囲む)からサンベルト地域(北緯37度以南の新興工業地域を大まかに囲む)への矢印で示す。

40時限

4章 現代世界の諸地域と近隣諸国の調査

3節 国規模の地域の調査

2. アメリカ合衆国

4 中西部～農産物の生産と流通～

本時のねらい

1. 世界有数の穀倉地帯であるプレーリーやグレートプレーンズにおける農業経営の特色について理解を深める。
2. 穀物メジャーに代表されるアグリビジネスの役割について理解を深めさせる。

導入時の発問例

現地レポートより

- ①合衆国中西部各地から鉄道によって集められた穀物類は、シカゴで船舶に積み込まれ、海外へ輸出されてきたが、シカゴからはどのようなルートで大西洋まで運搬されたか。④解答例：ミシガン湖→ヒューロン湖→オンタリオ湖→セントローレンス運河→大西洋→海外。
- ②教p.96写真①で収穫されている小麦は「春小麦」「冬小麦」のどちらと考えられるか。④解答例：春小麦(教p.97図⑤参照)。

その他

- ①とうもろこしや大豆は、ある食品の原料として利用され、そのあと家畜の飼料として利用される場合もある。どのような食品の原料として利用されるだろうか。④解答例：コーン油や大豆油。

板書例

指導上の留意点

●世界有数の穀倉地帯中西部

[農業地域の特色]

- ・コーンベルトの混合農業
- ・プレーリー・グレートプレーンズの小麦生産
大型のトラクター・コンバインを使用した大規模農業
①冬小麦(秋まき)…南部(カンザス州など)
②春小麦(春まき)…北部(カナダ国境付近)
- ・グレートプレーンズなどの肉牛飼育
フィードロット…企業的な肉牛肥育牧場→大規模な食肉工場へ
[大規模農業経営のメリット・デメリット]
・生産性の高い合理的経営←大型機械や化学肥料、農薬の使用
・さまざまな問題点…土壌侵食、干ばつ、農地荒廃など

●世界に影響を与える農業

- ・アグリビジネス…農業に関連する各種産業
例)農産物流通(集荷・貯蔵・運搬)、種子の開発、
肥料・飼料生産、農業機械の製造など
- ・穀物メジャー…世界的なアグリビジネスの中核である穀物商社
世界各地の作付け状況や気象状況の情報収集
→世界の穀物需給の動向を予測しながら国際市場で取引

●日本の食をささえるアメリカ合衆国の農業

- ・アメリカ合衆国からの輸入
小麦→国内消費量の約半分、牛肉→国内消費量の約1/4
- ・課題…食品安全への考え方の相違、日本の食料自給率の低さなど

⇒教p.89図⑦でプレーリーやグレートプレーンズの位置を再確認させる。

⇒トラクター(教p.56写真①手前の牽引車両)やコンバイン(教p.96写真①の刈り取り脱穀機)がどのような機械であるか写真で確認させる。

⇒冬小麦と春小麦の栽培時期と主要栽培地域の違いを理解させる。

⇒フィードロットの写真は教p.97写真⑥のほか、p.58写真③で、飼料供給用の車両や日よけ用テントについても補足説明する。

⇒教p.59図⑥やp.96写真③などでアグリビジネスのしくみや現場のようすを理解させる。

⇒教p.97図④を見せながら、BSE問題に絡む米国産牛肉の輸入禁止措置にも言及し、食品安全への思想の違いについて考えさせる。

地図帳の活用例

- ①断p.69の特設「アメリカ合衆国の土壌侵食と保全対策」から、土壌侵食などの被害状況と等高線耕作などの保全策を確認させ、土壌侵食が深刻化した原因を考えさせる。④解答例：大型機械の導入などにより経営が大規模化することで、細かな土壌侵食防止策がおろそかになっていたため。

■p.96①「大規模な小麦の収穫」

写真は、春小麦地帯の中心地であるノースダコタ州において、小麦の収穫を行う家族経営の農家である。農業機械の大型化が進んでいるアメリカ合衆国では、家族経営の農家でも500ha以上もの土地で小麦を栽培している。コンバインは200～300馬力の出力をもつ超大型のものであり、一度に3～6haの耕地の収穫ができる。コンバインが4～8km進むと収穫した小麦のタンクが一杯になるため、写真のような大型トラックに小麦を移す。大型トラックに積み込まれた小麦は、集落内のグレインエレベーター（小麦貯蔵庫）を所有する製粉会社に販売される。なお、春小麦とは、4月から5月の春季に播種され、8月から9月上旬に収穫されるもので、ノースダコタが栽培の中心である。一方、カンザス州を中心として栽培される冬小麦は、9月から10月にかけて播種され、翌年の4月下旬から7月上旬にかけて収穫される。

■p.96②「多くの鉄道が乗り入れるシカゴの中心地」

写真は、シカゴのダウンタウンの空中写真である。近景に見える鉄道は、シカゴ高架・地下鉄道とアムトラックの路線である。その横には、アメリカンフットボールのシカゴベアーズの本拠地であるソルジャーフィールドが見える。遠景の左上に見える黒色の超高層ビルが、シアーズタワーである。シアーズタワーとシカゴ川を挟んだ向かい側には、30のプラットフォームがあるアムトラック（全米鉄道旅客輸送公社）のユニオンステーションがある。

シカゴは、アメリカ合衆国の鉄道交通の結節点（ハブ）である。とくにアムトラックの鉄道路線地図を見ると、ほとんどの路線がシカゴに集まっている。例えば、東海岸のニューヨークから西海岸のロサンゼルスへ鉄道で移動するためには、シカゴを経由しなければならない。なお、アメリカ合衆国の長距離移動は航空機が主体であり、運賃の高い鉄道での移動は老人の観光旅行、運賃の安い長距離バスは学生の移動というイメージがある。都市近郊の路線を除いて、アムトラックの運行本数は一日に1～3本程度である。

■p.96③「シカゴ穀物取引所」

シアーズタワーから東に3ブロック（約300m）の場所にあるシカゴ穀物取引所（シカゴ商品取引所 Chicago Board of Trade）は、世界最大の農作物の先物取引所である。取り扱う商品は、とうもろこし、大豆、小麦などの穀類をはじめとして、銀などの鉱産物、及び手形などの財務商品がある。とくにとう

もろこしと大豆などの取り引きが主体であり、シカゴの穀物取引所の相場を指標にして、世界の穀物価格が決定されるといわれる。

シカゴは広大な農地が広がる中西部と人口が集中する東部の大都市群との間に位置し、鉄道輸送の結節点にあることから、小麦などの農作物の主産地として発展した。シカゴ穀物取引所は、1848年に28の製粉業者によって設立された。なお、シアーズタワーから北に2ブロックの場所のシカゴ川沿いには、シカゴ商業取引所 Chicago Merchandise Exchange がある。こちらの取引所は、シカゴ穀物取引所から分離して1919年に設立されたものであり、各国の通貨、財務省の債券、畜産物などを扱っており、その取引額は世界最大である。

■p.97④「日本の小麦と牛肉の輸入先」

日本の食料自給率は、1960年代には7割をこえていたが、1990年代以降は4割まで減少した。また、日本人一人が一年間に消費する米の量は、1960年には115kgだったのが、2002年には63kgまで減少した。日本人の食生活は洋風化が進み、小麦・肉類・乳製品・油脂の消費量が飛躍的に増加している。現在の日本の食文化は、農業大国であるアメリカ合衆国をはじめ、海外からの食材の輸入に大きく依存しているのである。もし、なんらかの理由でアメリカ合衆国からの農産物の輸入が中止された場合、日本人の食生活は大きな混乱に陥るだろう。その代表例が、BSE（牛海綿状脳症）による牛肉の輸入禁止である。

■p.97⑤「北アメリカの農業地域」

アメリカ合衆国の農業は、適地適作による明確な農業地域区分がみられる。アメリカ合衆国で最も広い面積で栽培されている農作物が、とうもろこしである。とうもろこしの栽培が集中するコーンベルトでは、とうもろこし、大豆、豚を組み合わせた農業が伝統的に行われてきた。この農法には、イネ科のとうもろこしとマメ科の大豆をローテーションすることにより病虫害が押さえられ、余剰収穫物は豚の餌にできるという利点があった。

とうもろこしに次いで栽培面積が広いのが小麦である。小麦はとうもろこしに比べて乾燥に強いいため、年降水量が500mmを下回る西経100度よりも西側の地域に、冬小麦地帯や春小麦地帯などの栽培地域が広がる。冬小麦地帯では、小麦と飼料作物のモロコシ（ソルガム）のほか、土壤水分を涵養するための休閑地がみられる。また、冬小麦地帯では、天然の草地ではじまった肉牛の放牧が、より集約的なフィードロットへと発展した。そのほか、カリフォルニア州やフロリダ州では、温暖な気候をいかして、柑橘類や野菜などの園芸作物が広く栽培されている。また、

五大湖周辺や東海岸北部の冷帯に属する地域では、乳牛の飼育がさかんである。

■p.97⑥「フィードロット」

写真は、フィードロットと呼ばれる肉牛を肥育する大型農場であり、ベンと呼ばれる柵囲いのなかでたくさんの肉牛が飼育されている。フィードロットは、とくにネブラスカ州、カンザス州、オクラホマ州西部、テキサス州の北部など、冬小麦地帯に多く分布する。フィードロットの立地には、病気の予防や糞尿の処理のために、降水量が少なく、かつ牛の飲み水を大量に確保できる地域が望ましい。半乾燥気候下にあり、オガララ帯水層などの豊かな地下水がある冬小麦地帯は、フィードロットによる肉牛の生産に適した地域でもある。

フィードロットでは、とうもろこしなどの穀物を中心とした配合飼料とホルモン剤の投与によって、18～20か月という短期間で肉牛を肥育する。近年、ワシントンなど東部の州でBSEが発生し、日本などがアメリカ合衆国からの牛肉の輸入を停止した経緯から、食肉加工業者では、危険部位を除去するなどの対策を実施するようになった。しかし、全個体の月齢把握や、牛肉のトレーサビリティなど、改善すべき課題も残されている。

■p.97⑦「おもな農産物輸出に占めるアメリカ合衆国の割合」

アメリカ合衆国は、世界最大の農畜産物の輸出国である。2002年の国連食糧農業機関統計(FAOSTAT)によると、アメリカ合衆国の農産物で輸出額が世界第1位であったのは、肉類(58億ドル)、大豆(56億ドル)、とうもろこし(51億ドル)、小麦(36億ドル)、綿花(20億ドル)であった。また、米の輸出額(7.7億ドル)は、世界で第3位であった。近年では家畜の飼料やバイオ燃料の原料として、大豆やとうもろこしの価格が上昇しており、生産量と国際取引額が増加している。また、農薬の散布を減らして生産コストを下げるために、遺伝子組み換え作物の面積も増加している。2002年時点において、アメリカ合衆国で栽培される大豆の75%、とうもろこしの34%が遺伝子組み換えの品種である。

本文解説

■シアーズタワー(p.96現地リポート タイトル)

シカゴのダウントウンにあるシアーズタワーは、地上の高さ442m、110階建てであり、アメリカ合衆国で最も高いビルである。1973年にシアーズの本社ビルとして建設されたシアーズタワーは、1997年にマレーシアのペトロナス・ツインタワー(452m)が完成するまで、世界一の高層ビルだった。なお、

2004年には台湾に台北101(508m)が完成したため、シアーズタワーは世界第3位の高層ビルとなった。

■コーンベルト(p.96②)

とうもろこしは、小麦や米と並んで世界の三大穀物であるが、主に家畜の飼料として消費されることが、ほかの穀類と異なる点である。アメリカ合衆国は世界最大のとうもろこしの生産国であり輸出国である。アメリカ合衆国の中でとうもろこしの生産が最もさかんな地域がコーンベルトである。コーンベルトの中心4州(アイオワ、イリノイ、インディアナ、オハイオ)は、アメリカ合衆国におけるとうもろこしの約半分を生産する。これらの州は西経80～100度、北緯35～45度の範囲にあり、降水量は800mm～1000mmである。近年では飼料作物やバイオエタノール燃料などの需要により、コーンベルトの外縁部においてとうもろこしの生産が増加している。

■土壌侵食、干ばつ、農地の荒廃などの問題(p.97④6～7)

アメリカ合衆国の穀作地帯は、豪雨による土壌侵食や干ばつなどの自然災害により、農地が荒廃する危険性が高い。とくにグレートプレーンズ南部は、1940年代に大規模な干ばつが発生し、ダストストーム(砂嵐)の被害によって小麦などの農作物が壊滅的な打撃を受けたことで知られる。このような経験から、アメリカ合衆国では農務省土壌保全局の指導のもとで、農地の荒廃を防ぐ対策がとられるようになった。例えば、傾斜地にある農地では、豪雨時の土壌流出をくい止めるために大うねがつくられている。このような農地を遠くから見ると、等高線に沿ってつくられた大うねが縞状になるため、等高線耕作と呼ばれる。また、降水量の少ない地域では、土壌侵食の危険性が高い農地での耕作を中止して天然の草地に戻すと、政府から補償金がもらえるという制度もつくられた。

(筑波大学大学院講師 仁平尊明)

TRY (p.96)の解説・解答

とうもろこしの栽培がさかんなコーンベルトには、豚の分布がとくに集中している。フィードロットでの肉牛生産がさかんな地域では、とくにネブラスカ州あたりで、とうもろこし栽培地域とフィードロットの分布が重なる。

参考文献

◆矢ヶ崎典隆・斎藤 功・菅野峰明(2006年):『アメリカ大平原—食糧基地の形成と持続性(増補版)』古今書院

41 時限

4章 現代世界の諸地域と近隣諸国の調査

3節 国規模の地域の調査

2. アメリカ合衆国

5 西海岸～移民と産業～

本時のねらい

1. アジア系とヒスパニック系住民が多い西海岸の人々の生活の特色について理解を深めさせる。
2. 西海岸に集積している先端技術産業の特色を理解させる。

導入時の発問例

現地レポートより

- ① リポートのおおよそのドライブルートを、**図**p.98図②上でなぞってみよう。**④解答例**：省略
- ② 高級住宅地ビュアリーヒルズは、民族別の居住区でいうと、何系の多い地域になるか。**④解答例**：ヨーロッパ系住民の多い居住区。一般に高所得層はヨーロッパ系に多く、ヒスパニックとアフリカ系は低所得層が多い傾向にある。

その他

- ① カナダとアメリカ合衆国の西部国境は、人為的な直線国境である。北緯何度線上か。**④解答例**：北緯49度線。

板書例

指導上の留意点

●移民の多い西海岸の町

- ・ アジア系移民…チャイナタウンやコリアンタウンを形成
例) シアトル, サンフランシスコ, ロサンゼルス
- ・ ヒスパニック(おもにメキシコからの移民)
カリフォルニア州農業の収穫期労働力
↓ 冬が温暖なので年中栽培
野菜(ブロッコリー)や果実(オレンジ・ぶどう)などの生産

●世界最先端のハイテク産業

- ・ シアトル都市圏
航空機会社の主力工場やコンピュータソフト会社の本社が立地
- ・ シリコンヴァレー(サンフランシスコ近郊)
① 半導体工場や研究機関が集積, 情報技術(IT)の研究開発
② 世界各地から研究者が集まり, ネットワークを広げる
→ 母国帰国後もこの地域と密接な関係をもち続ける

●アメリカ合衆国とのつながりが深いカナダ

- ・ 開放的な国境…交通・通信システムが一体で合衆国資本が多数進出
- ・ ケベック州のフランス系住民…分離独立運動もある
→ カナダ政府は先住民も含めた多文化主義を掲げている

④ **図**p.90本文から, さまざまな出身地をもつ移民の存在を理解させる。

④ **図**p.98図②やp.99図⑦を活用し, ロサンゼルスや合衆国内の各民族のおもな居住地域を確認させる。

④ シアトルは, ボーイング, マイクロソフトのほかにも, スターバックス, アマゾンなど, 日本でも広く名を知られている企業の発祥地でもあることを紹介し, 身近に感じさせる。

④ シリコンヴァレーでも**図**p.95本文同様, 製品生産機能にかわって研究開発機能が業務の中心になっていることを理解させる。

地図帳の活用例

- ① **新**p.67①の土地利用の表示から, ヒスパニックの収穫期労働者が多く働くカリフォルニア農業の中心地域はどこか。**④解答例**：灌漑施設が整備されているセントラルヴァレーやインピリアルヴァレーが中心。

■p.98①「高級住宅地のビヴァリーヒルズ」

ビヴァリーヒルズは、ロサンゼルス市街地の北西部にある丘陵地の上につくられた高級住宅街である。メディア関連産業が集中するハリウッドに近いことから、俳優や歌手のほか、ディレクター、プロデューサー、放送作家なども多く住んでいる。ビヴァリーヒルズは1914年にロサンゼルスから独立して市となった。その面積は14.7km²と小さく、2000年の人口は約3.4万である。住宅一戸あたりの敷地面積は約1000m²もあり、住宅の世帯主の44%が持ち家に住んでいる。持ち家の平均価格は100万ドルをこえ、世帯主の平均年収は12.5万ドルである。

■p.98②「ロサンゼルスの人種・民族の住み分け」

ロサンゼルスでは、アジアや中央アメリカに近いこともあり、東洋系やヒスパニック系の住民が多い。アジア系住民によるエスニックタウン(民族街)には、中国人によるチャイナタウン、韓国人によるコリアンタウン、日本人によるリトルトーキョーがある。アジア系の移民の中でもとくに中国人は増加を続けており、ロサンゼルス市東部の郊外には、複数の新しいチャイナタウンがつくられている。郊外の新しいチャイナタウンは、大規模な駐車場と複数のテナントが入居するショッピングセンターの形態をとる。一方、日本人は移民が継続しなかったため、日系人にとってのリトルトーキョーの生活基盤としての機能は弱くなった。リトルトーキョーでは、日本の食材などを販売する商店にかわって、観光客を対象にした土産物店が増加した。

ロサンゼルス市の人口は約38万(2000年)であるが、そのうち約4割がヒスパニックである。ヒスパニックは、農場や工場、道路工事などの肉体労働者に従事する人が多く、都心のエスニックタウンばかりでなく、農村部にも多く住んでいる。カリフォルニア州政府は、ヒスパニックの生活を支援するために、スペイン語教育のプログラムを小中学校で提供している。また、スペイン語で放送されるテレビやラジオの番組も多い。

■p.98③「チャイナタウン」

写真は、ロサンゼルス市のダウンタウンにあるチャイナタウンである。中国風の建物や商店など、独特の景観をもつことから観光地としても有名である。近年では、郊外に新しいチャイナタウンが形成されていることから、ダウンタウンにあるこの街区は、オールドチャイナタウンと呼ばれるようになった。

アメリカ合衆国における中国人の移民の歴史は古い。カリフォルニアゴールドラッシュの金鉱山の鉱

夫や、大陸横断鉄道を建設するための労働者として、19世紀中頃には中国からの移民が始まった。近年でも、1997年におけるホンコンの中国返還によるホンコン出身者の流入、改革開放政策による中国大陆からの新移民の増加により、中国系アメリカ人の数は増加している。中国からの移民は、まず、中華料理店で料理人として働き、ある程度の財をなすと独立して家族で中華料理店を開店する傾向がある。

■p.98④「ヒスパニックの多いオルベラ街」

オルベラ街は観光地でもあり、中南米料理のレストランや、銀細工や革製品などの土産物店が軒を連ねている。オルベラ街においては、スペイン語で表示された商店の看板ばかりでなく、スペイン語の新聞や広告も配られている。オルベラ街のようなヒスパニックのエスニックタウンでは、スペイン語だけで生活できるため、英語を話せない住民も多い。オルベラ街の歴史は古く、18世紀後半にメキシコから移住した人たちがつくった集落が起源である。当時の集落の名前は、「ボルシウンクラの天使の女王、聖母の川(EI Rio de Nuestra Señora, La Reina de Los Angeles de Porciúncula)」であり、これが現在のロサンゼルスという地名の語源となった。

■p.98⑤「アメリカ合衆国の野菜と果物の生産に占めるカリフォルニア州の割合」

カリフォルニア州は、野菜・果実・花などの園芸農業が大変さかんである。オレンジ、ブロッコリー、セロリ、さくらんぼなど、カリフォルニア産の園芸農産物は、日本のスーパーマーケットでも一年中販売されている。地中海性気候にあるカリフォルニア州では、夏にはほとんど雨が降らず、乾燥した茶褐色の景色が広がる。その中で緑をたたえているのが、灌漑によって人工的に栽培されている農作物である。かつてカリフォルニアでは、乾燥に強い加工用ぶどうの栽培や、降雨がある冬の野菜栽培がさかんであった。1930年代に灌漑水路が整備され、シエラネヴァダ山脈から農業用水が引かれるようになると、大量の水を必要とするオレンジなどの柑橘類や、夏野菜の栽培もさかんになった。カリフォルニアの夏は日照時間も長く、気温も高いため、水さえあれば植物にとって最高の生育条件になる。近年では、ドール社などの大手加工企業による農作物の生産も増加している。

■p.99⑥「アメリカ合衆国とカナダの国境」

アメリカ合衆国とカナダの陸路の国境は開放的であり、アメリカ合衆国の市民がカナダに入国するときは、運転免許証か出生証明書を入国審査員に提示するだけでよい。日本人が観光旅行でアメリカ合衆国からカナダに入国する際も、パスポートの提示だ

けで済む。南北アメリカ大陸の中でアメリカ合衆国とカナダは隣国の位置にあり、同じアングロサクソン系の国で、かつ先進国であることから、両国は経済的に強く結びついてきた。2006年におけるアメリカ合衆国の主要輸出国は、取引額が多い順に、カナダ、メキシコ、日本の順であり、主要輸入国はカナダ、中国、メキシコの順であった。なお、2001年9月11日の同時多発テロ事件以降、アメリカ合衆国への空からの入国は厳しくなった。とくに2004年以降は、ビザ免除国(カナダや日本を含む)では必要なかった指紋採取と顔写真の撮影が、空港からのすべての入国者に義務づけられるようになった。

■p.99⑦「人種・民族の分布と都市の人口構成」

アメリカ合衆国の人種・民族構成の分布をみると、地域や都市によって偏りがみられる。アフリカ系アメリカ人(黒人)の割合が高いのは、東海岸のノースカロライナ州から南部のルイジアナ州にかけての地域と都市である。かつてアフリカ系アメリカ人は奴隷貿易によってアメリカ合衆国に連れてこられ、大農場の労働力となった。その中心が、コットンベルトやたばこベルトと呼ばれた南部の州である。なかでも、ミシシッピ、アラバマ、ジョージア、サウスカロライナの4州はディーブサウスと呼ばれ、アフリカ系アメリカ人の住民の割合が高く、人種差別的強い州として知られる。

ヒスパニックの割合が高いのは、カリフォルニア、アリゾナ、ニューメキシコ、テキサスの4州である。これらの州内でもメキシコとの国境に近い郡で、ヒスパニックの割合が高くなっている。ヒスパニックはスペイン語を母国語とする民族の区分であり、人種(肌の色)の区分ではない。ヒスパニックの同義語としてラティーノという言葉があるが、これはラテン系民族の意味であり、例えばポルトガル語を母国語とするブラジル系の住民も含まれる。

ネイティブアメリカンが人口の15%以上を占める地域は、すべてインディアン居留地である。かつて北アメリカ大陸に広く分布し、それぞれの地域の自然環境に適応した生活を送っていたネイティブアメリカンは、19世紀後半のドーズ法などの政策によって、特定の居留地に移住させられた。

■p.99⑧「航空機の組み立て工場」

写真はシアトルの郊外にあるボーイング社の最終組み立て工場である。最終組み立て工場では、ほかのさまざまな工場で作られた部品をつなぎ合わせて、塗装までの仕上げを行う。最も高価な部品であるジェットエンジンは、ロールスロイス、ジェネラルエレクトリック、プラットアンドホイットニーなどの外部の企業から購入するものであり、1台あた

りの価格は10億円をこえる。ボーイング747などのジャンボジェットの場合、1機あたりの組み立て時間は約10か月であり、販売価格は200億円をこえる。このジャンボジェットを組み立てるボーイング社の工場は、世界最大の容積をもつ建築物である。飛行機が搬出される六つの扉の大きさは、それぞれ横が約100m、高さが約27mもある。

■p.99⑨「アメリカ合衆国への留学生の出身地域」

アメリカ合衆国で学ぶ留学生の数は57万人に達し、大学生(大学院を含む)全体の約4%に相当する。1980年代以降はアジアからの留学生が増加しており、とくに改革开放政策以降の中国をはじめ、インド、韓国、日本、台湾などが上位を占める。アジア以外では、カナダやメキシコからの留学生が多い。2005年度における日本からの留学生は約4万人であり、国別では第4位であった。

アメリカ合衆国への留学の魅力は、語学の習得に加えて、世界をリードするさまざまな分野の成果を学習・研究できることにある。アメリカ合衆国には単科大学を含めて4千以上の大学がある。名門大学としては、私立のハーバード大学やスタンフォード大学、州立のUCLAなどが知られている。

本文解説

■世界最大のコンピュータソフト会社の本社(p.99 25~6)

シアトルには、世界最大のコンピュータソフト会社であるマイクロソフト社が立地する。マイクロソフト社はWindowsなどのオペレーティングシステムや、WordやExcelなどの基本ビジネスソフト部門において、市場をほぼ独占するに至った。マイクロソフト社は、1975年にビル・ゲイツ氏とポール・アレン氏によって設立された。現在の会長であるビル・ゲイツ氏は、フォーブズ誌による世界長者番付において、10年以上も世界一になった人物である。近年のシアトルでは、マイクロソフト社をはじめとするIT関連企業の成長が著しく、シアトルからオレゴン州のポートランドまでが、シリコンフォレストと呼ばれるようになった。なお、シアトル近郊には、マイクロソフト社以外にも、Amazon.com、ニンテンドーアメリカなどの有名企業の本社がある。ボーイング社やスターバックスコーヒーもシアトルで設立された企業である。

(筑波大学大学院講師 仁平尊明)

TRY (p.99)の解説・解答

シアトルやサンフランシスコ。西海岸以外では、ホノルルなどハワイへの移民も多かった。

高等学校 世界地理 B 教授資料 CD-ROM付

平成 20 年 3 月 10 日 印刷

平成 20 年 3 月 20 日 発行

© 著作者 帝国書院編集部

東京都千代田区神田神保町 3 の 29

発行者 株式会社 帝国書院

代表者 守屋 美佐雄

発行所 株式会社 帝国書院

東京都千代田区神田神保町 3 の 29 (〒 101-0051)

電話 東京 03 (3262) 0830, 1 振替口座 00180-7-67014

ISBN978-4-8071-4132-6 C3325

* 本書に掲載した地形図は、国土交通省国土
地理院発行の 2.5 万分の 1 および 5 万分の 1
の地形図を使用したものである。

乱丁、落丁がありましたら、お取り替えいたします。

Printed in Japan